

群 教 セ	G15 - 01
	平 25. 249 集
	中・キャリア

中学1年生のキャリア教育における 人間関係形成・社会形成能力を高める指導の工夫

— 学校行事の事前・事中・事後に、
課題解決の活動を取り入れて —

長期研修員 岡根 康浩

キーワード 【キャリア教育 人間関係形成・社会形成能力 学校行事 課題解決の活動】

I 主題設定の理由

中央教育審議会は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）（2011）」の中で、コミュニケーション能力などの職業人としての基本的能力の低下や精神的・社会的自立の遅れなど、「社会的・職業的自立」に向けた様々な課題を指摘している。また、「第2期教育振興基本計画（文部科学省, 2013）」では、「社会的・職業的自立」に向けた能力・態度の育成を目標に掲げ、幼児期の教育から高等教育までの体系的、系統的なキャリア教育の推進を求めている。「中学校キャリア教育の手引き（文部科学省, 2011）」では、キャリア教育の推進に当たり、キャリア発達段階及び発達課題を踏まえた目標の設定を求めている。特に、小学校における人間関係との大きな違いに戸惑う中学校1年次には、中1ギャップという言葉に集約されるように集団への不適応等が顕在化してくる。中学1年生を対象としたキャリア教育を展開する際には、小学校高学年のキャリア発達課題とされる「集団の中の役割の自覚」「中学校への心の準備」への配慮が必要だと考える。

協力校の1年生においても、例年、前述した課題を抱える生徒が見られ、集団になかなか馴染めず、コミュニケーションをうまくとれないことにより、些細なことでトラブルが生じる場面が見受けられる。また、学級集団として活動する際に、自分が何をすべきか十分な自覚のないまま活動が始まり、集団活動に積極的にかかわろうとしない生徒が見られる。これは、生活基盤である学級において、互いに意見を伝え合い、相手のことを理解する機会が少ない、併せて、学級の活動にかかわっていくことが学級集団の向上のためになっていることを実感した体験が少ないからだと考える。

本研究では、人間関係形成・社会形成能力を「学級集団の中で自分の役割を見だし、活動にかかわる様々な課題を解決し、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとする力」ととらえ、中学1年生において、小・中の接続を意識しながらその育成を目指すこととした。具体的には、中学1年生の学校行事の中から、学級集団が目標に向かい一定の期間に渡って活動するものとして合唱コンクール（以下、コンクール）が適切であると考え、キャリア教育の指導実践を行った。練習を含めると1ヶ月にも及ぶコンクールは、学級の一人一人が役割を果たし、協力しながら一つの合唱を創り上げていく活動であり、計画的な指導で目指す能力を高めることが期待できる。以上から、学校行事の事前（学級の練習の前）・事中（学級の練習期間）・事後（コンクール後）の指導において、課題解決の活動を取り入れながら人間関係形成・社会形成能力を高めたいと考え、本主題を設定した。

II 研究のねらい

中学1年生のキャリア教育において、人間関係形成・社会形成能力を高めるために、学校行事の事前・事中・事後指導に、課題解決の活動を取り入れることの有効性を、実践を通して明らかにする。

III 研究の見通し

本研究では、人間関係形成・社会形成能力の高まりを以下の三つの見通しに沿って見取るものとする。

1 自己の役割を見付ける事前指導

事前指導の段階において、以前に実施した行事の反省を基に、コンクールに向けた学級全体の行動

目標を設定することで、集団活動における自己の役割を見付けることができるであろう。

2 学級や個人の取組を見直す事中共導

事中共導の段階において、集団活動の中で生じた様々な課題に対して、その解決方法を考えることで、学級や個人の取組を見直すことができるであろう。

3 集団の向上のために進んでかかわろうとする意欲を高める事後指導

事後指導の段階において、自分たちの取組全体を振り返り、成果を確認することで、学校生活において、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとすることができるであろう。

IV 研究内容の概要

本研究は、中学1年生のキャリア教育において、小・中の接続を意識し、人間関係形成・社会形成能力を高めることを目指したものである。その手だてとして、学校行事の事前・事中・事後指導の各段階において、集団活動上の様々な課題を生徒自らが見付け、話し合いを通して解決方法を考え、それを実行していく「課題解決の活動」を取り入れる。具体的な実践は2学期のコンクールで以下のとおり行う。

時 間	具体的な実践内容
事前指導 (第1時)	体育祭を振り返り、学級の集団活動上の課題を見付け、その解決方法を踏まえ、コンクールにおける学級行動目標を決める。また、コンクールに向けた集団活動において、自己の役割も考える。
事中共導 (第2・第3時)	コンクールに向けた集団活動の中で生じた課題に対して、その解決方法を話し合い、コンクールまでの学級の取組と併せて、自己の取組の見直しも行う。
事後指導 (第4時)	コンクールまでの取組全体を振り返り、集団活動のよさについて考える。また、学校生活の中で、よりよい学級集団にしていくためにどんなことができるか考える。
※ 上記4時間以外にも常時活動として、合唱練習を通して、事前・事中共導での決定事項を実践する。また、自己や学級の合唱練習への取組を振り返り、成果と課題を考える。	

このように、学校行事における集団活動の中で、「課題の発見」→「解決方法の検討」→「集団活動」→「振り返り」を繰り返し行い、課題の解決に向けて共に活動していく過程を通して、中学1年生のキャリア教育において人間関係形成・社会形成能力を高めたいと考える。

V 研究のまとめ

1 成果

- 課題解決の活動を取り入れたことで、学級の集団活動上の課題に対して、その解決方法を考え、解決に向けて行動できる生徒が多くなった。また、集団活動の意義を理解し、学級の中の自己の存在を自覚できるようになり、集団の向上のために、授業や清掃、給食当番などの活動に自ら進んでかかわっていきこうとする意欲の高まりが認められた。
- 学校行事をキャリア教育の視点で見直した実践例を示すことができた。既存の学校行事をキャリア教育に組み込むことで、人間関係形成・社会形成能力を高められることが分かった。

2 課題

- 課題解決の活動を通して、集団活動における自分の役割を見付けたり、課題に対する解決方法を考えたりしたが、実際に行動に移せない生徒もいた。学校行事の際だけではなく、学校生活全般においても、課題解決の活動を繰り返し取り入れ、行動に移せるよう指導していく必要がある。
- コンクールだけでなく、その他の学校行事もキャリア教育の視点で見直し、1年を通して系統的、計画的な指導計画を構想し、実践していく必要がある。

VI 研究の内容

1 人間関係形成・社会形成能力とは

中央教育審議会は、「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）」の中で、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる「基礎的・汎用的能力」を育成するよう求めている。この能力は、「人間関係形成・社会形成能力」「自己理解・自己管理能力」「課題対応能力」「キャリアプランニング能力」によって構成され、本研究では、中学1年生において、この四つの能力の一つである人間関係形成・社会形成能力を高めることを目指している。「中学校キャリア教育の手引き」では、この能力を「多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力」と示している。また、学習指導要領の特別活動の目標では、新たに「人間関係」が追加され、学級への所属意識をもち、集団の生活や活動の向上のために進んで力を尽くそうとする態度を養うことを求めている。

これらを踏まえ、本研究では、中学1年生で身に付けさせたい人間関係形成・社会形成能力を「集団活動において、自分の役割を見だし、活動にかかわる様々な課題を解決し集団の向上のために自ら進んでかかわろうとする力」ととらえた。この「かかわろうとする力」が身に付いたかどうかは、継続的な見取りが必要となるため、かかわろうとする意欲・態度面の高まりを検証することとする。

人間は、学校や地域、会社など、常に社会の中で生活し、他者とのかかわりを通して、生活を充実させることができる。そのため、この能力は、現在はもちろん将来においても、社会とのかかわりの中で生活していく上で、基礎となる力と考える。

2 人間関係形成・社会形成能力を高める手だてについて

(1) 課題解決の活動について

生徒は、学級の一員として日々生活しており、その中で各自の果たすべき役割や責任を自覚することは、学級集団の発展や生徒自身の成長にとって、さらに将来、社会人としての自立のためにも大切なことである。また、学級の中で共に生活する級友の考えや立場を理解したり、互いの意見を伝え合ったりすることは、望ましい人間関係を築いていくためにも必要なことと考える。

このようなことを経験する場として、「課題解決の活動」を取り入れる。これは、学校行事の事前・事中・事後において、集団活動上の様々な課題を生徒自らが見付け、話し合いを通して解決方法を考え、それを実行していく活動である。具体的には、学級活動の時間に、事前指導では学級として何を目標にし、その達成のために個人として何ができるかを考えさせる。事中共指導では、集団活動の中で生じた課題について、その解決方法を考えさせることを通して、目標達成に向けた学級や個人の取組の見直しをさせる。事後指導では、それまでの取組全体を振り返り、学級や自身の成長を確認させるとともに、日常の学校生活における課題を見付け、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとする意欲を高める。また、学級活動の時間以外にも、事前・事中共指導での決定事項を踏まえた合唱練習や、自己や学級の取組を振り返る活動を常時行う。

この課題解決の活動では、話し合いを「グループ」や「学級全体」などの形態で行い、互いの意見のよさに共感したり異なる意見を受容したりしながら、学級の進むべき方向について集団で決定をしていく。課題を共に解決していくこのような過程を通して、生徒は他者の考えや立場を理解したり、互いに意見を伝え合ったりできるようになり、よりよい人間関係を築くことができると考える。

(2) キャリア教育の視点で見直した1年生の学校行事について

本研究では、多くの中学校で実施されている1年生各学期の学校行事をキャリア教育の視点で見直し、課題解決の活動を取り入れながら、人間関係形成・社会形成能力を高めたいと考えた。中学1年生は生活面、学習面、人間関係などそれまでの環境が大きく変化し、その変化に適応できず、中1ギャップと言われる様々な問題が多く表れる時期だからである。また、学校行事は、生徒の生活基盤である学級集団が、一つの目標に向かって一定の期間活動するため、目指す能力を高める上で大きな効果が期待できると考えたからである。既存の学校行事をキャリア教育の視点で見直すこ

とで、従来の目的のほかに新たな学校行事の意義を見だし、その実践例を提案したい。

なお、その際、中学1年生の1年間でも生徒の置かれている環境や発達段階は異なるため、それらを考慮し、行事ごとに人間関係形成・社会形成能力で特に高めたい部分を設定する(表1)。例えば、1学期は、新しい環境や人間関係に特に戸惑う時期であることから、小・中の接続を意識し、環境の変化や新しい人間関係に適応させたい。2学期は、中学校生活や人間関係に慣れた時期であることから、集団の中での役割を果たし、集団活動にかかわらせたい。3学期は、1年間を振り返り、次年度への準備時期であることから、学級集団としての成長を確認し、新しい学級における集団活動への意欲を高めたい。授業実践は、2学期に実施されるコンクールで行った。

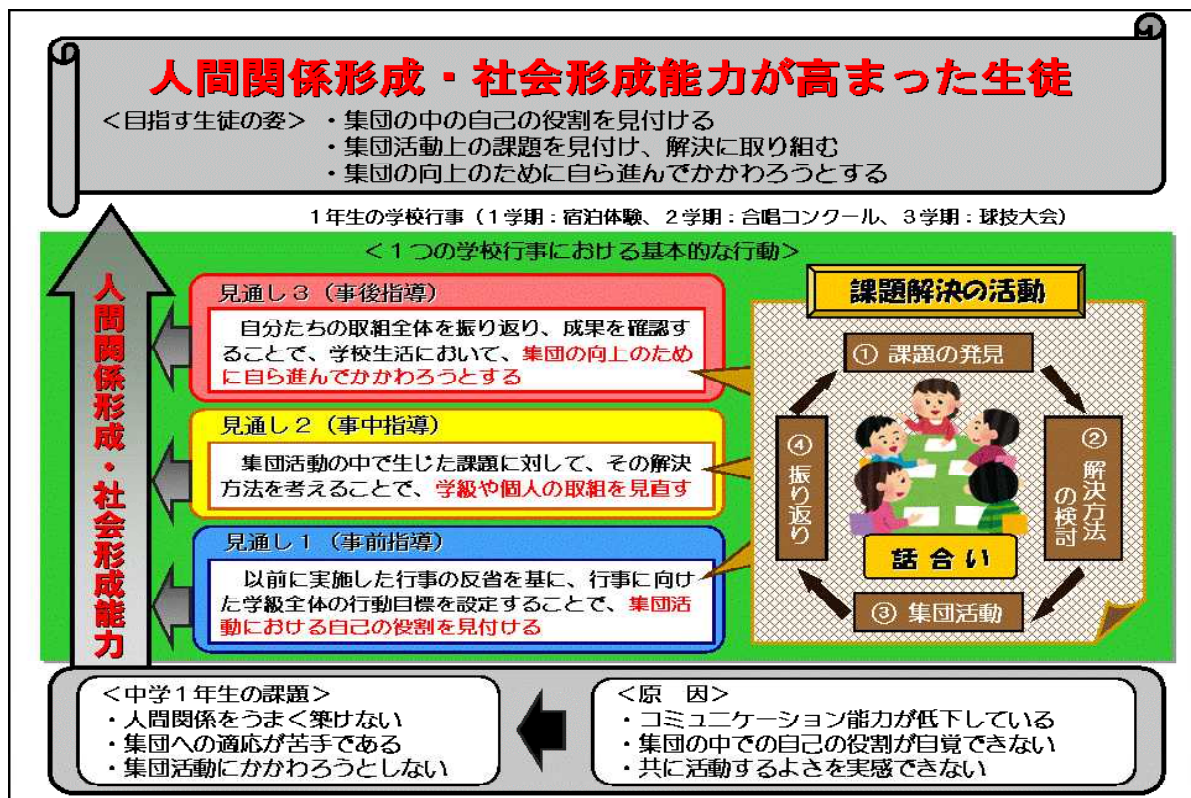
表1 キャリア教育の視点で見直した1年生の学校行事と、各行事において人間関係形成・社会形成能力で特に高めたい部分

学期	学校行事	生徒の置かれている環境や発達段階	人間関係形成・社会形成能力で特に高めたい部分
1	宿泊体験	・新生活への不安 ・新しい人間関係への戸惑い	・環境の変化に適応するとともに、友達のよいところを知り、新しい人間関係を築く。
2	合唱コンクール (授業実践)	・中学校生活への慣れ ・人間関係の広がり	・集団の中での役割を果たし、よりよい人間関係を形成しながら、集団活動にかかわる。
3	球技大会	・学級集団としてのまとめ ・人間関係の深まり	・1年間の学級集団の成長を確認し、次年度の集団活動への意欲を高める。

3 先行研究とのつながり

これまでの中学校キャリア教育における研究では、例えば、群馬県総合教育センター長期研修員の先行研究として、「キャリアノート」(2008)や「将来設計図」(2010)など、キャリア教育を行うための教材開発を主としたものや、コミュニケーション能力(2004)や職業観・勤労観(2009)などの育成に視点を当てたものが見られる。本研究は、これらのうち、コミュニケーション能力の育成を目指した研究とのつながりがあると考える。しかし、先行研究は人間関係づくりやコミュニケーションスキルの習得を主眼としているが、本研究は、学級集団の中で自分の役割を見だし、活動にかかわる様々な課題を解決し、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとする力を高めることを目指したものである。

4 研究構想図



Ⅶ 実践の計画と方法

1 授業実践の概要

対象	研究協力校 中学校第1学年 90名
実践期間	平成25年10月7日(月)～11月8日(金) 4時間
単元名	コンクールを成功させるために
単元の目標	<ul style="list-style-type: none"> ○ 体育祭の反省を基に、コンクールに向けた学級全体の行動目標を設定し、集団活動における自己の役割を見付ける。 ○ コンクールに向けた集団活動の中で生じた課題に対して、その解決方法を考え、学級や個人の取組を見直す。 ○ コンクールにおける取組全体を振り返り、集団活動のよさに気づき、学校生活において、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとする。

2 検証計画

研究仮説	検証の観点	検証の方法	処理・解釈
学校行事の事前・事中・事後の指導で、課題解決の活動を取り入れることにより、人間関係形成・社会形成能力を高めることができる。	中学校1年生の学校行事(コンクール)において、人間関係形成・社会形成能力を高めるために、課題解決の活動を取り入れることの有効性について、以下の観点から検証する。	○事前アンケート	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践前後の生徒の変容(アンケート) ○ ワークシートへの記述内容の分析 ○ 授業後の自己評価の分析 ○ 実践に協力してくれた教師の意見・感想の分析
	○観点1 事前指導の段階において、体育祭の反省を基に、コンクールに向けた学級全体の行動目標を設定することで、集団活動における自己の役割を見付けることができたか。	○ワークシート ○授業後の自己評価 ○教師による観察	
	○観点2 事中指導の段階において、コンクールに向けた集団活動の中で生じた様々な課題に対して、その解決方法を考えることで、学級や個人の取組を見直すことができたか。	○ワークシート ○授業後の自己評価 ○教師による観察	
	○観点3 事後指導の段階において、コンクールにおける自分たちの取組全体を振り返り、成果を確認することで、学校生活において、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとすることができたか。	○ワークシート ○授業後の自己評価 ○教師による観察 ○事後アンケート ○教師の意見・感想	

3 抽出学級

行事や学級の活動の際に、自分自身が何をすべきか考えて取り組んでいる生徒が40%弱であり、級友とのかかわりを大切にしたいという気持ちはあるが、具体的な言動には結び付いていない。集団の向上のために、どのようにかかわっていくかが課題である。

4 評価規準

集団活動や生活への関心・意欲・態度	集団や社会の一員としての思考・判断・実践	集団活動や生活についての知識・理解
学級の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の生徒と協力して、自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。	学級の一員としての自己の役割を自覚し、他の生徒の意見を尊重しながら、集団におけるよりよい生活づくりなどについて、考え、判断して実践している。	充実した集団生活を築くことの意義や、学級の生活づくりへの参画の仕方などについて理解している。

5 指導計画(全4時間)

時間/段階	主な学習活動【学習形態】	活動への支援及び留意点	評価項目及び方法
事前指導	<キャリア教育の視点> 具体的な要素：コミュニケーション・スキル、他者に働きかける力		
	【学級全体】 ○体育祭における集団活動を振り返り、成果や課題を出し合う。 【グループ】 ○課題を踏まえ、コンクールの学級スローガン達成のために必要な学級共通の行動を話し合う。 【学級全体】 ○全体で発表し合い、整理し、学級行動目標を決める。 【個人】 ○自己の役割を考える。	・体育祭における成果や課題を、コンクールにつなげるようにする。 ・『話し合いのルール』の「意見のポイント」を参考にして、集団行動を行っていく際の具体的な行動を考えるように伝える。 ・『話し合いのルール』の「意見の決め方・選び方」を参考にして、学級行動目標を絞るようにさせる。 ・学級のためにできる自己の役割を考えさせる。	・よりよい集団活動にしていくための学級の行動を挙げている。 【思・判・実】 (観察・ワークシート) ・コンクールに向けた集団活動における自己の役割を見付けている。 【思・判・実】 (観察・ワークシート)
常時活	<見通し1> 体育祭の反省を基に、コンクールに向けた学級全体の行動目標を設定することで、集団活動における自己の役割を見付けることができたか。		
	【個人】 ○合唱練習への取組を自己評価する。 ○1週間の活動を振り返る。	・『自己評価カード』を活用し、自己の取組を振り返らせる。 ・学級や自己の成果と課題を考えさせる。	・自主的、自律的に集団活動に取り組もうとしている。 【関・意・態】 (観察・自己評価カード)

動	練習	<p>【学級全体・パート全体】 ○話し合いで決まった学級行動目標を意識し、合唱練習を行う。</p>	<p>・話し合いでの決定事項を実践しているかどうかを見届け、必要に応じて助言する。</p>	<p>・目標実現に向けて決定事項を実践している。 【思・判・実】 (観察・自己評価カード)</p>
	事中指導	<p style="text-align: center;"><キャリア教育の視点> 具体的な要素：コミュニケーション・スキル、チームワーク</p>		
2	①	<p>【パートの小グループ】 ○今までの練習から見てきたパートの課題について、その解決方法を話し合う。 【パート全体】 ○各グループで考えた解決方法を整理し、パートの解決方法を決める。 【個人】 ○自己の取組を見直す。</p>	<p>・『話し合いのルール』の「意見のポイント」を参考にして、具体的に実行可能な解決方法を考えるように伝える。 ・パートごとに解決方法を決め、今後の練習の在り方について見通しをもたせる。 ・自己の取組を振り返り、よりよい合唱にするためにどんなことができるか考えさせる。</p>	<p>・パートの課題に対する解決方法を見付けられている。 【思・判・実】 (観察・ワークシート)</p>
	事中指導	<p style="text-align: center;"><見通し2> コンクールに向けた集団活動の中で生じた様々な課題に対して、その解決方法を考えることで、学級や個人の取組を見直すことができたか。</p>		
	②	<p>【パート全体（男子は2グループ）】 ○コンクールに向けた最後の解決方法を話し合い、決める。 【個人】 ○自己の取組を見直す。</p>	<p>・学年リハーサルや前時に決めたパートの解決方法の振り返り、合唱を仕上げるために「どんな点を改善していくか」など具体的に考えるように伝える。 ・合唱を仕上げるために、どんなことができるか考えさせる。</p>	<p>・今後の自己の取組を考えている。 【思・判・実】 (観察・ワークシート)</p>
常時活動	帰りの会	<p>【個人】 ○合唱練習への取組を自己評価する。 ○1週間の活動を振り返る。</p>	<p>・『自己評価カード』を活用し、自己の取組を振り返らせる。 ・学級や自己の成果と課題を考えさせる。</p>	<p>・自主的、自立的に集団活動に取り組もうとしている。 【関・意・態】 (観察・自己評価カード)</p>
	練習	<p>【学級全体・パート全体】 ○話し合いで決まった学級行動目標やパートの解決方法を意識し、合唱練習を行う。</p>	<p>・話し合いでの決定事項を実践しているかどうかを見届け、必要に応じて助言する。</p>	<p>・目標実現に向けて決定事項を実践している。 【思・判・実】 (観察・自己評価カード)</p>
	事後指導	<p style="text-align: center;"><キャリア教育の視点> 具体的な要素：コミュニケーション・スキル、他者の個性を理解する力</p>		
1		<p>【学級全体】 ○コンクールにおける集団活動を振り返り、自分や学級の成長を確認する。 【学級全体】 ○日常の学校生活における課題を出し合う。 【個人】 ○今後の学校生活での自己の取組について考える。</p>	<p>・個人の成長（頑張り）が学級の成長に、また、学級の成長が個人の成長につながっていることに気付かせ、集団活動のよさを実感させる。 ・課題を出し合い、コンクール後の日常の学校生活にも目的意識をもたせる。 ・学校生活の中で、どんなことができるか具体的に考えさせる。</p>	<p>・集団活動のよさに気付いている。 【知・理】 (観察・ワークシート) ・集団の向上のために進んでかかわろうとしている。 【思・判・実】 (観察・ワークシート)</p>
		<p style="text-align: center;"><見通し3> コンクールにおける自分たちの取組全体を振り返り、成果を確認することで、学校生活において、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとすることができたか。</p>		

VIII 実践の結果と考察

コンクールの事前・事中・事後に行った各実践の結果と考察は以下の1～3に、実践全体の結果と考察は4に示した。検証は、生徒のワークシートへの記述内容や授業後の自己評価、実践前後のアンケート調査、実践に協力してくれた教師の意見や感想を基に行った。

1 自己の役割を見付ける事前指導

(1) 実践の概要

実践第1時の前に、9月下旬に実施された体育祭（練習から本番まで）の振り返りを行った。生徒からは、学級全体の取組の成果として、「みんなで一致団結できた」「協力してできた」「練習をしっかりとやれるようになった」「大縄の時、みんな大きな声を出していた」など、集団としてまとまりをもって活動できたという内容の意見が出された。一方で、学級の練習への参加態度や協力姿勢について、「一人一人が集団活動に進んでかかわれていなかった」という内容の記述が目立つ

など、課題も見られた。また、自分自身の取組に対する個々の振り返りでは、「学級全体の活動の時、学級のために自分が何をしたらよいか考え、取り組むことができた」という項目で、抽出学級30人の中で、「あてはまる」3人（10.0%）、「ややあてはまる」10人（33.4%）、「あまりあてはまらない」13人（44.3%）、「あてはまらない」4人（13.3%）であった。「あまりあてはまらない」と「あてはまらない」を合わせると半数を超え、個々の取組についても課題が見られた。

このような実態を踏まえ、第1時は「コンクールに向けた学級の活動に、進んでかかわることができた（協力できた）といえる学級行動目標を決めよう」という議題を設定し、話し合いを行った。生徒は、体育祭における集団活動の成果と課題を確認した後、話し合いを通して、「時間を守る」「リーダーに頼らないで自分から行動する」「大きな声で歌う」「練習中ふざけない、おしゃべりをしない」という四つの学級行動目標を決めた。さらに、学級のためにどんなことができるか、自己の役割を考え、自分自身の行動目標を決めた。それらを基にして「自己評価カード」（図1）を作成し、自己の集団活動への取組を毎日振り返ったり、週末には1週間の活動を振り返り、自己や学級の成果と課題を考えたりした。

自己評価カード					
1年 組 番 氏名					
【 A : よくできた B : ままあてできた C : あまりできなかった D : できなかった 】					
おもな項目	5(時)	5(時)	5(時)	5(時)	5(時)
<クラスの行動目標>					
・時間を守る					
・リーダーに頼らないで、自分からやる					
・大きな声で歌う					
・練習中ふざけない、おしゃべりをしない					
<自分の行動目標(クラスのために自分が行うこと)>					
今週の合唱への取組はどうだった？			来週の行動目標(自分が行うこと)		
自分の「よくなった点」や「改善点」	「パート(クラス全体)」の「よくなった点」や「改善点」				
「改善点」	「改善点」				

図1 自己評価カード

(2) 結果と考察

コンクールに向けた集団活動において、「学級のために、どんなことができるか」について、生徒が書いたワークシートへの記述内容を見ると、抽出学級の全員の生徒（欠席1人）が、表2のような役割を見付けることできた。また、図2の生徒による授業後の自己評価からは、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計は、27人（93.1%）であり、おおむね達成できたことが分かる。

このような結果となったのは、自己の役割を考える前に、実践の数日前まで活動してきた体育祭における振り返りを行ったことで、集団活動における問題点について具体的な行動や場面をイメージしやすかったこと、また、話し合いを通して、学級行動目標を決める中で、多くの意見に触れたことで、自分には気付かなかった見方や考え方に気付くことができたことなどが考えられる。

課題としては、生徒が考えた役割の中には、表2の下線部のとおり「一生懸命練習する」「迷惑をかけない」など、漠然としたものも多く見られたことが挙げられる。また、自己評価では、図2で見られるように、2人（6.9%）の生徒が「あまりあてはまらない」と回答した。これらは、中学1年生にとってコンクールは初めての行事で、自分たちで練習を重ね、みんなで合唱を創り上げていくという経験がなかったため、集団としてどんな活動をしていくのか、具体的な行動をイメージしたり、活動の見通しをもったりすることが難しかったからだと考える。全体的には、コンクールに向けた集団活動に自分自身がどのようにかかわっていくか、活動途中でより具体的な行動を繰り返し考える場面を設定していく必要があると思われた。

表2 生徒が考えた自己の役割(延べ人数)

- ・真剣にやっていない人(ふざけている人)を注意する(5人)
- ・必ず練習に参加する(4人)
- ・みんなに練習を呼びかける(2人)
- ・時間を守る(5人)
- ・人の失敗を責めない(2人)
- ・一生懸命(真剣に、まじめに、集中して)練習する(13人)
- ・迷惑をかけないように行動する(5人)
- ・自分の意見をきちんと言う(2人)

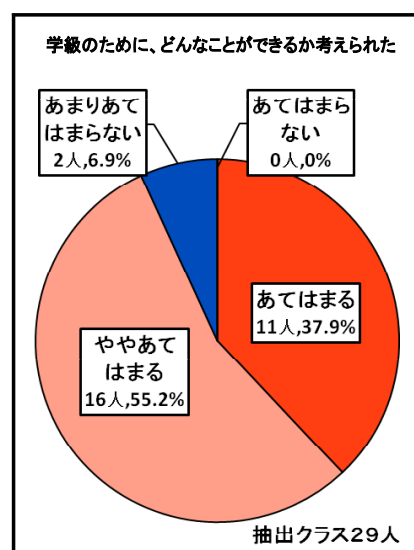


図2 第1時後の自己評価

2 学級や個人の取組を見直す事中指導

(1) 実践の概要

コンクールに向けた学級の練習が始まり、自己評価カードにはそれまでの成果とともに様々な課題が挙げられた。実行委員（前後期学級委員、パートリーダーで構成）は課題を整理し、各パートごとに重点的に解決していく項目を選定した（表3）。学級の練習が始まり2週間が経過した頃に、「よりよい合唱にするために、パートの課題を解決する方法を決めよう」という議題で第2時を行った。また、コンクール直前には、「合唱を仕上げるために、パートの最後の作戦を決めよう」という議題で第3時を行った。両時間ともパートごとに話し合い、課題に対する解決方法を決め、コンクールまでの集団活動の取組を見直した。また、自分自身どんなことができるか個人の取組の見直しも行った。

(2) 結果と考察

① 学級の取組の見直しについて

話し合いでは、全員の生徒がパートの課題に対して、その解決方法（生徒には作戦という表現を使用した）を付箋紙に書き、台紙に貼りながら発表し合うことができた。発表後は、図3のように、台紙の周囲に集まり、KJ法によって意見を整理し、解決方法（作戦）を決定することができた。



図3 付箋紙を動かし、意見を整理する様子

表3は、第2時に行った話し合いにおける各パートの決定事項である。決定事項の中には、表中の下線部のとおり「一週間練習する」「CDを聞いて練習する」など、パートの課題の解決に向けて

見直しをもち、具体的にどのような活動をしていくか見直した様子が見える。また、表中の波線部のとおり「声をかけ合う」「注意し合う」「パート練習する」など、個人だけの取組では解決が難しいことをみんなで解決していくという内容への見直しもあり、約2週間の学級の練習や話し合いを通して、コンクールに向けた集団活動への意識が高まってきた様子が感じられる。

表4は、第3時に行った話し合いにおける各パートの決定事項であるが、コンクールまでの数日間で見直した内容や本番を想定した合唱をする際の態度に関する内容が見られる。本番を見据え、合唱を仕上げるため、より具体的で細かい部分まで見直したことがうかがえる。

このように、両時間の決定事項を見ると、各パートともその時々の課題に対して、集団活動を振り返り、今後の活動においてどのようなことを行って解決していくか見直すことができた。

表3 話し合いにおける決定事項（第2時）

各パートの課題	→	決定した解決方法
<テノール>		
・歌詞を覚えきれていない	→	・一週間、マイソングを見て徹底的に練習する
・他のパートにつられる	→	・CDを聞きながら、繰り返しパート練習する
・練習がすぐに始まらない	→	・5分前に動き、声をかけ合う
・ふざけながらやっている	→	・ふざけている人を注意し合う
<アルト>		
・歌詞を覚えきれていない	→	・一週間、マイソングを見て徹底的に練習する
・ソプラノにつられる	→	・全体練習以外の昼休みにパート練習する ・立ち位置を変え、つられない人が後方から歌う
・練習時間を守れない	→	・時間前にみんなで声をかけ合う
<ソプラノ>		
・歌詞を覚えきれていない	→	・時間がある時は、数人でも自主練習する
・音程がずれる	→	・CDを使って、ずれるところを繰り返しパート練習する
・練習時間を守れない	→	・予定時間より早く行動し、声をかけ合う

表4 話し合いにおける決定事項（第3時）

決定した最後の作戦
<テノール>
・ホールの広さを考えて声量を上げる
・強弱をつけて、力強さを出す
・指揮者から目を離さない
・フラフラしないで、姿勢よく歌う
<アルト>
・強弱をつけて、やわらかく歌う
・伸ばす部分をしっかりと伸ばす
・発音が前に出ているところを直す
<ソプラノ>
・息継ぎのあと、出遅れない
・フレーズごとの出だしをはっきりと歌う
・口を大きく開け、ホールを考えた声量を出す

② 個人の取組の見直しについて

第2時、第3時とも、パートの課題に対する解決方法（作戦）を決めた後に、学級のためにどんなことができるか、自己の役割を考え直した。ワークシートへの記述を見ると、抽出学級の全員が、学級のために、自分自身どのように取り組んでいくか見直すことができた。表5は、第1時から第3時にかけて、自己の役割についての生徒の考え（ワークシートへの記述）が変化した具体例を示したものである。

表5 自己の役割についての生徒の考えが変化した具体例

	第1時	第2時	第3時
生徒A	・関係のない話をしないで、真剣に練習する	・楽譜を見ながら、できないところの自主練習する	・ホールの広さを考え、口を大きく開け、 <u>パート</u> を引っ張る
生徒B	・練習に遅れず、集中して歌う	・友だちに頼らないで、 <u>自分から</u> 声を出す ・5分前行動をする	・口を大きく開け、伸ばすところはしっかりと伸ばして歌う
生徒C	・時間を守り、みんなに迷惑をかけない	・時計を見て行動し、 <u>遅れそう</u> な人に声をかける	・一回一回の練習で、最後の作戦を徹底する
生徒D	・みんなに迷惑をかけないように考えて行動する	・ <u>パートの人に</u> 改善点を指摘したりアドバイスしたりする	・ <u>みんなに</u> 声をかけ、歌いやすい雰囲気をつくり、やる気を高める
生徒E	・ <u>ミスした人</u> を責めない	・ <u>ミスした人</u> を責めないで励ます	・パートの改善するところを <u>みんな</u> に伝えていく

表5を見ると、第1時から第3時にかけて、自己の役割について漠然とした内容から、合唱や練習への参加態度に関する具体的な内容へと変化していることが分かる。表中の下線部のとおり「自分から」「自主」など、集団活動に進んでかかわろうとする内容や、波線部のとおり「みんなに」「パートを」など、個人として周囲や集団にどのようにかかわるかを考えた内容へと変化している。また、表5には示していないが、「学級委員として」「パートリーダーとして」など、学級の中の自分の立場から集団にどのように働きかけていくかを考えた内容もあった。このような変化は、抽出学級の30人中20人の生徒に見られた。

第1時から第3時の各授業後に行った「学級のために、どんなことができるか考えることができた（見直すことができた）」についての自己評価の変化（図4）を見ると、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計は、第2時は28人（93.4%）、第3時は29人（96.7%）であった。さらに、各授業における変化を比べると、「あてはまる」は、第1時の11人（37.9%）から第2時は14人（46.7%）、第3時は20人（66.7%）となり、コンクールに向けた集団活動において、自分自身どんなことができるか考えられる生徒が増加したことが認められる。

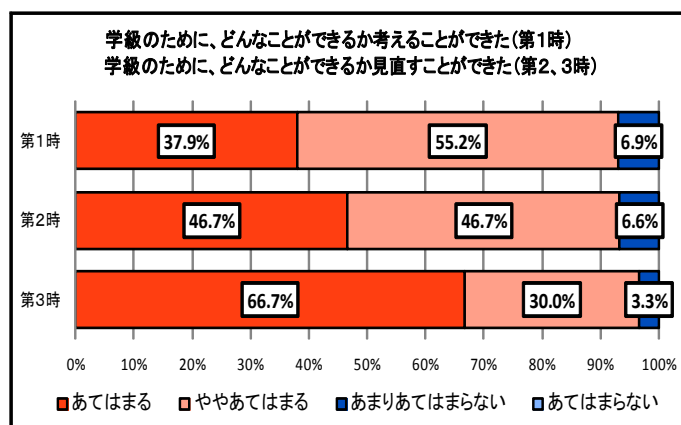


図4 各授業後の自己評価の変化

第1時から第3時にかけて、表5や図4のような変化が見られるようになった理由として、以下のようなことが考えられる。

- 自分たちが行ってきた合唱練習の中からパートの課題を見付け、話し合いを通してその解決方法を考えたことで、自分自身も今後どのような取組を行っていけばよいか具体的な行動をイメージしやすくなった。
- 授業や自己評価カードを通して、よりよい集団活動にしていくために、自分がどのようにか

かわっていくか繰り返し考えてきたことで、自分一人の取組だけでなく、周囲や集団に意識が向き、どのように働きかけていくか考えが及ぶようになった。

- 学級委員やパートリーダーを実行委員として話合いの司会や議題の選定作業に携わらせてきたことで、自らの立場を自覚できるようになり、リーダーとして集団にどのようにかかわっていくか考えられるようになった。

課題としては、授業において学級のためにどんなことができるか見直すことができても、実際の集団活動の中で行動に移せない生徒が見られたことが挙げられる。生徒による自己評価でも、前頁図4のように、第2時は2人(6.6%)、第3時は1人(3.3%)の生徒が「あまりあてはまらない」と回答した。これらは、授業で自己の取組を見直した際の意識が持続しなかったり、自分が行動することが集団活動の向上につながることに気付いていなかったりするからだと考える。生徒の集団活動への取組を観察したり、自己評価カードへの記述内容を確認したりしながら、行動に移せるように声かけを繰り返し行っていく必要がある。また、集団活動の意義について考える場面をつくっていく必要もあると思われる。

3 集団の向上のために進んでかかわろうとする意欲を高める事後指導

(1) 実践の概要

コンクール終了後、「コンクールに向けてみんなで頑張ってきたことを振り返り、今後の集団活動を考えよう」という議題で第4時を行った。これまでの自分たちの取組全体を振り返り、取組の前と後で、自分自身の変化についての意見(表6)と、学級の変化についての意見(表7)をそれぞれ出し合った。

表6 自分自身の変化についての意見(延べ人数)

- ・優勝したいという気持ちになった(16人)
- ・やる気が出てきた(7人)
- ・家で自主練習をするようになった(8人)
- ・時間を守るようになった(9人)
- ・改善点を見付けて、意見を出すようになった(4人)
- ・クラスのためにできることを考えるようになった(5人)
- ・クラスのために進んで行動するようになった(4人)
- ・クラスのために頑張りたいと思うようになった(7人)
- ・周りの人に声をかける(アドバイスする)ようになった(3人)
- ・みんなと活動することが楽しいと思えた(5人)
- ・友だちのよいところ(頑張り)が分かるようになった(3人)
- ・色々な人と話をするようになった(2人)

表7 学級の変化についての意見(延べ人数)

- ・優勝しようという雰囲気になった(8人)
- ・みんなのやる気が出てきた(12人)
- ・練習に真剣に取り組むようになった(15人)
- ・時間を守るようになった(9人)
- ・話合いで意見を出す人が増えた(9人)
- ・自主練習する様子が見られるようになった(6人)
- ・クラスがまとまってきた(7人)
- ・アドバイスしてくれる(励ましてくれる)人が増えた(12人)
- ・クラスの(男女の)仲がよくなった(5人)
- ・みんなで注意し合えるようになった(4人)
- ・真剣に話を聞いてくれるようになった(2人)
- ・言葉をかけやすい雰囲気になった(2人)

これらの意見を基に、そのような変化が見られるようになった理由を考え、個人(一人一人)が頑張ってきたから学級が変わり、集団(学級)が頑張っているから自分自身ももっと頑張ろうと意識が変わってきたことを確認した。また、日常の学校生活での課題を発表し合い、よりよい学級集団にしていくために、自分自身どんなことができるか考えた。そして、コンクールの経験を日常の学校生活に生かせるようにした。

(2) 結果と考察

よりよい学級集団にしていくために、「学校生活の中で、どんなことができるか」について、生徒が書いたワークシートを見ると、抽出学級の30人中29人の生徒が、コンクール後も授業中や清掃活動などにおいて、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとする内容の記述をしていた。次頁表8は、ワークシートへの記述内容を学校生活における活動ごとにまとめたものである。授業や清掃、給食当番など様々な活動において、具体的にどのようにかかわっていくかが考えられている。表中の下線部のとおり「注意する」「声かけをする」「時間を守る」など、コンクールにおける集団活動を通して身に付いてきた態度を継続していこうとする姿勢もうかがえる。

表8 ワークシートへの記述内容（延べ人数）

<p>＜授業への取組について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係のない話をしないで、授業に集中する（5人） ・<u>チャイム着席</u>ができていないで行う（2人） ・教科によって態度を変えないでしっかりと取り組む（3人） <p>＜清掃への取組について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・他人がやりたがらないことを、自分から先にやる（6人） ・<u>開始時間</u>を守り、終わりまできちんと取り組む（4人） ・自分のやることが終わったら、手伝う（2人） ・よく取り組めていなかったで、自分の役割をまじめにやる（4人） 	<p>＜給食当番への取組について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時間になったらすぐに運び、配膳を早くする（5人） ・重いものも進んで運ぶようにする（2人） <p>＜集団生活全般について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・やるべきことをしていない人がいたら<u>注意</u>する（7人） ・「やろう」と呼びかけたり、<u>声をかけたり</u>する（2人） ・<u>時間を守って</u>生活する（3人） ・クラスの仕事を進んで引き受ける（1人）
--	--

また、生徒による授業後の自己評価からも、図5のように、「あてはまる」「ややあてはまる」の合計は28人（93.4%）であった。

このような結果となったのは、コンクールに向けた取組全体の振り返りを通して、自分（個人）の頑張りが学級（集団）の成長に、学級の頑張りが自分自身の成長につながっていることに気付き、集団活動のよさを実感できた生徒が多かったからだと考える。この振り返り後に書いた生徒の感想にも、「集団で一つのことをやり遂げるのは、あまり好きではなかったけど、楽しいと思えるようになったし、大切だと気付いた」「最初は声が出る人が出せばいいと思っていたけど、一人一人大事な役割があって、誰も欠けてはいけないと思った」「一人が頑張るのではなく、みんなで頑張ると大きな力になると分かった」というような記述が多く見られ、集団活動のよさに気付いたことがうかがえる。

課題としては、ワークシートに記述できなかった生徒が1名いたことや、図5の自己評価で「あまりあてはまらない」「あてはまらない」と回答した生徒が合わせて2人（6.6%）いたように、集団活動に馴染めず、自らかかわりをもとめない生徒がいることである。一つの行事を通じた実践だけでなく、毎日の授業やその他の行事で集団を意識した活動を繰り返していく中で、集団活動の意義を理解させていく必要がある。

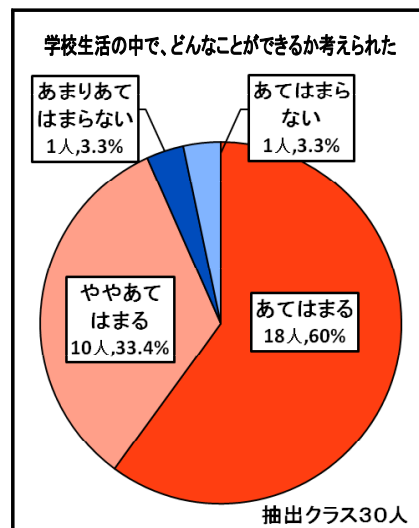


図5 第4時後の自己評価

4 実践全体を通しての人間関係形成・社会形成能力の高まりについて

今回の実践では、集団活動において自分の役割を見だし、活動にかかわる様々な課題を解決し、集団の向上のために自ら進んでかかわろうとする力を高めることを目指した。実践の前後での生徒の変化と、実際に指導した教員の意見から検証を行った。

まず、実践の前後で、行事や学級の活動への生徒の取組についてアンケート調査をした。図6を見ると、「行事や学級の活動に進んで取り組んでいる」という項目に対して、実践後に27人（90.0%）の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答しており、特に「あてはまる」は、実践前の7人（23.3%）から実践後の15人（50.0%）と約2倍に増加している。その理由として「1つのことをみんなでや

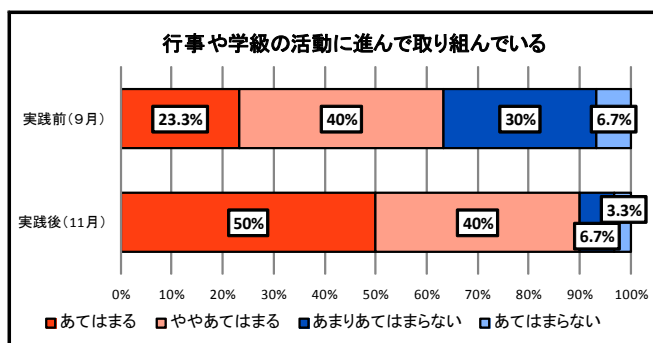


図6 行事や学級の活動への取組に関するアンケート調査①

ることが大切だから」「クラスで取り組む活動には、自分の力も大切だから」「みんなと協力してやると楽しいから」などを挙げている生徒が多かった。

また、図7を見ると、「行事や学級の活動の時、自分がどんなことができるか考え、取り組んでいる」という項目で、実践後の「あてはまる」「ややあてはまる」の合計は、25人（83.3%）で実践前の約2倍となり、特に「あてはまる」は、約3

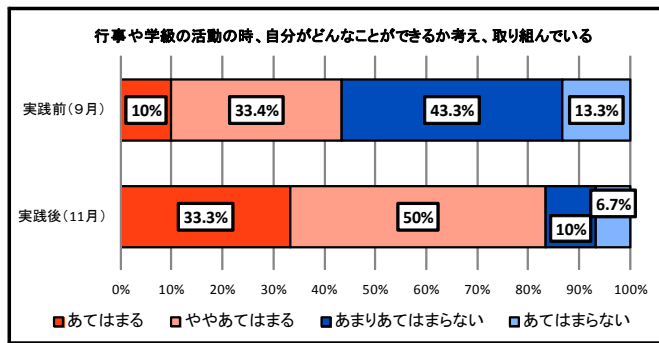


図7 行事や学級の活動への取組に関するアンケート調査②

倍に増加していることが分かる。その理由として、生徒は「考えて取り組んだ方が、よりよい活動になるから」「自分も30人の中の1人だから」「クラスの活動の力になりたいから」などを挙げている。

次に、今回の実践に協力してくれた教員の意見及び感想は、表9のとおりである。人間関係形成・社会形成能力の高まりについては、実践を通して、「コミュニケーションを図りながら、互いの考えを尊重し合うようになってきた」「調和を保ちながら行動できるようになってきた」「自他の立場を理解し、集団活動への協力姿勢が表れてきた」「一人一人の力が集団の成長を支えていることを理解し、集団活動への意欲が高まってきた」など、生徒のよい変化に関する意見が多くあった。課題解決の活動については、「重要性を生徒自身が認識できた」「生徒たち同士がかかわり合う中で、解決策を模索する過程が大事だ」という好意的な意見を得られた。

表9 実践に協力してくれた教員の意見①

1. 実践全体を通しての「人間関係形成能力」の高まりについて
<ul style="list-style-type: none"> ・話し合いをグループで行い、テーマについてそれぞれの意見を出したり、集約して整理したりするところはお互いの考えを尊重し合うことになったと思う。 ・話し合いで決まった目標を集団で実践したり、自分の考えた役割に取り組んだりさせたことがよかったと思う。他者と比べて自分はどうかを比較させたり、活動を振り返らせたりすることが調和を保ちながら行動することに繋がったのではないかなと思う。 ・話し合うことにより、自分の意見を伝え、他人の意見を知ることができ、よりよい方向にみんなに向かっていくことができるようになった。
2. 実践全体を通しての「社会形成能力」の高まりについて
<ul style="list-style-type: none"> ・個人から集団へ、集団から個人へという流れを理解させ、個々人がしっかりといていないと全体の成長には繋がらないということ理解させたことだと思う。 ・教師ではなく生徒がリーダーとなってグループを統括することで、協力姿勢が培われたと思う。 ・リーダーでない生徒も、友だちがグループをまとめている姿を見て、協力しようという姿勢が生まれた。
3. 課題解決の活動について
<ul style="list-style-type: none"> ・教師主導の課題解決ではなく、自らが課題に気づき、自分たちの活動をよりよくするために解決に取り組んでいくことの重要性を生徒自身が認識することができたのではないかなと思う。 ・話し合う、意見を聞く、整理するといった生徒たち同士がかかわり合う中で、解決策を模索する過程が大事だと思うので、今回の活動が意義あるものであると思う。 ・解決方法を決めても、それが実際の行動に表れない生徒も見られた。決めるだけで終わらず、活動の様子を観察し、行動に移せるよう声かけを行っていくことも大切だと感じた。

このように、生徒による実践前後のアンケート調査結果や教員の意見から、今回の実践を通して、以下のような成果を得ることができた。

- 課題の解決に向けて、意見を伝え合ったり、共に活動したりする中で、互いの考えや立場を理解できるようになり、よりよい人間関係を築く姿が見受けられた。
- 集団活動の意義を理解し、活動への意欲が高まってきた。そして、活動にただ取り組むだけでなく、集団の中の自己の存在を自覚し、よりよい集団活動となるように、目的意識をもち、自ら

かかわってこうと考えるようになってきた。

- 自分たちの活動をよりよくしていくために、自らが課題を見付け、解決に取り組んでいく重要性を認識することができ、生徒たちがかわり合い、解決策を模索することができた。

課題としては、前頁表9の教員の意見にもあるように、課題解決の活動について、解決方法を決めても、実際に行動に移せない生徒が見られることである。この活動は、学校行事の際だけではなく、学校生活全般においても、集団活動をよりよくするために取り入れられるものである。様々な場面で、繰り返し取り入れていくことで、学級の集団活動上の課題を、自分のこととしてとらえ、行動できる生徒が増えてくると考える。

IX 研究の成果と課題

1 成果

(1) 課題解決の活動について

今回の実践では、集団活動上の課題を生徒自らが見付け、話し合いを通して解決方法を考え、それを実行していく「課題解決の活動」を取り入れてきた。その際、話し合いにより、互いに意見を伝え合い、よい意見に共感したり異なる意見を受容したりしながら、自己が所属する集団に関する事柄について決めていくことで、人間関係形成・社会形成能力を高める上で効果が期待できると考える。しかし、実践前のアンケート調査では、話し合い活動に対して消極的な考えをもっている生徒が多かったため、「はばたく群馬の指導プラン（群馬県教育委員会、2012）」の「学級活動」を参考にして、授業づくりを行うとともに、意見の考え方や話し合いの仕方、意見の決め方などを示した「話し合いのルール」を作成し、活用できるようにした（図8）。

図9と図10は、話し合い活動への生徒の取組について、実践の前後にアンケート調査した結果である。図9を見ると、「自分の意見を進んで発表している」について、実践後の「あてはまる」「ややあてはまる」の合計は、24人（80.0%）で実践前の3倍以上となり、自分の意見を進んで発表する生徒が増えたことが分かる。その理由としては、「自分の意見を周りの人に知ってほしいから」「よりよい活動にするために、自分の意見も参考にしてほしいから」「自分の意見でクラスがよくなってほしいから」などが挙げられた。

また、図10を見ると、「友達の意見をしっかりと聞いている」について、実践後に27人（90.0%）の生徒が「あてはまる」「ややあてはまる」と回答している。特に「あてはまる」は、実

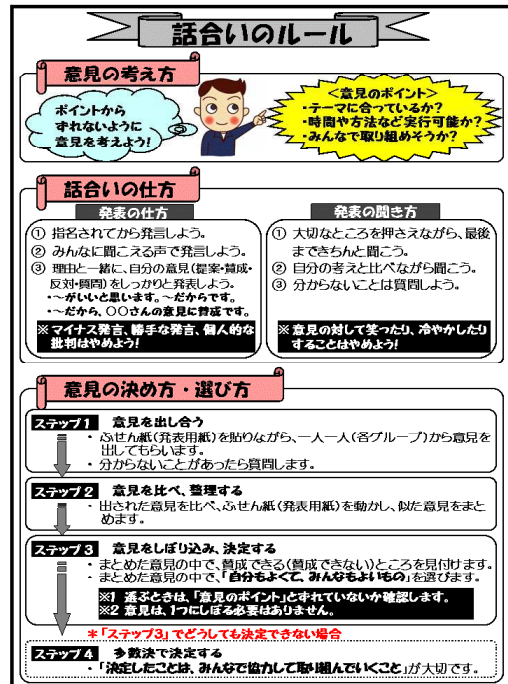


図8 話し合いのルール

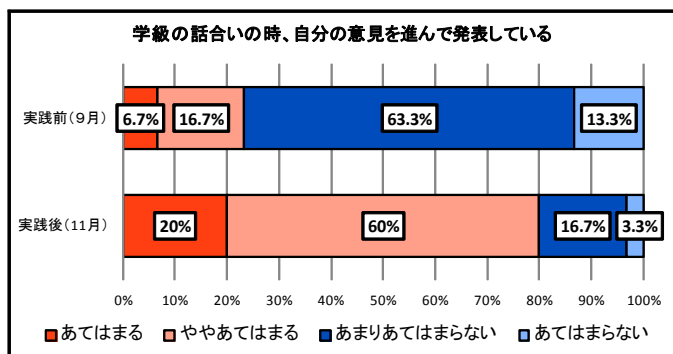


図9 話し合い活動への取組に関するアンケート調査①

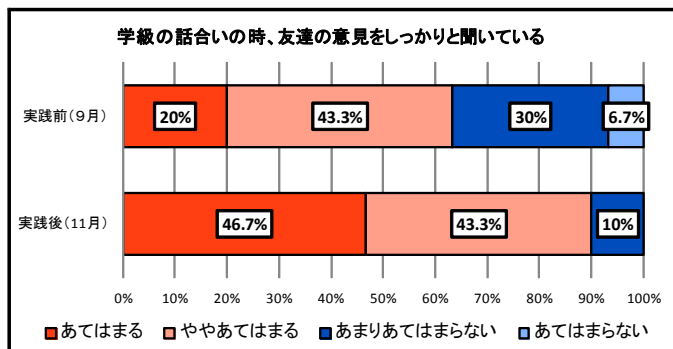


図10 話し合い活動への取組に関するアンケート調査②

実践前の6人(20.0%)から実践後の14人(46.7%)と2倍以上に増加し、意見をしっかりと聞く態度も身に付いてきていることがうかがえる。生徒は、その理由に「自分の意見と比べたいから」「自分では思いつかなかった考えを聞けるから」「様々な考えを知ることができるから」などを挙げていた。

さらに、表10のように、実践に協力してくれた教員からは、「話し合いの仕方が分かってきたことで、発言が多くなってきた」「クラスのための話し合いを行う中で、自分もクラスの一員と感じたのではないか」「教科指導や進級後など、今後も実践できる」など、好意的な意見や感想を得られた。

このように、今回の実践を通して、生徒は話し合いの仕方を学ぶことができた。話し合いを通じた課題解決の活動が充実したものとなり、多くの生徒が集団活動に意欲的にかかわろうとする様子が見られるようになった。

(2) 学校行事をキャリア教育の視点で見直したことについて

学校行事には、体験活動が多く取り入れられ、様々な教育効果が期待できる。しかし、ややもすると前年を踏襲し、円滑に実施することや好成績を残すことに気を取られてしまい、目的が見失われてしまうことがある。

そこで、今回の実践では、2学期に実施されるコンクールへの取組を、キャリア教育の視点で見直し、人間関係形成・社会形成能力を高めることを目指した。実際に、「Ⅷ 実践の結果と考察」で記したような成果が得られ、生徒たちは大きく変化してきた。また、実践に協力してくれた教員からは、表11のような、好意的な意見や感想を得

られ、学校行事をキャリア教育の視点で見直した今回の実践が有効であることが確認できた。今回の実践を通して、キャリア教育のための活動や行事を新たにつくり出すのではなく、既存の学校行事をキャリア教育に組み込むことで、キャリア教育の推進が図れることが分かった。

2 課題

(1) 課題解決の活動の継続的な実践の必要性について

課題解決の活動を取り入れ、学級の集団活動上の課題に対して、集団として取り組む解決方法や個人としての役割を考えてきたが、実際に行動に移せない生徒が見られた。また、具体的な役割を見付けられない生徒や集団活動にかかわりをもととしない生徒もいた。学校行事の際だけでなく、日常の学校生活の中でも、課題解決の活動を取り入れ、学級の集団活動上の課題を、自分のこととしてとらえたり、実際に行動に移したりできるよう継続して実践していく必要がある。

(2) 系統的なプログラムについて

今回の実践は、2学期のコンクールを通して行った。本研究では、中学1年生の各学期の学校行事に着目し、キャリア教育の視点でそれらの行事を見直すこととした。2学期のコンクールにお

表10 実践に協力してくれた教員の意見②

・話し合い活動について
・話し合いの仕方の基本的なパターンが分かり、どのように話し合いをしたら、課題を解決することができるかを生徒自身がつかめてきたので、発言が多くなってきた。また、今後2、3年生で話し合いを行っていくベースができたと思う。
・教師自身も話し合わせる方法が分かったので、学級活動以外の教科指導の中でも、実践していけると思う。
・普段は発言をしない生徒も、今回の方法では自分の意見を言うことになるため、全員がクラスのための話し合いに参加して「自分もクラスの一員」とより強く感じるようになったと思う。
・初めは付箋を貼っていく方法に戸惑っている生徒もいたが、徐々に慣れて、意見が多くなり、話し合い活動が充実していったように思う。

表11 実践に協力してくれた教員の意見③

・学校行事をキャリア教育の視点で見直したことについて
・キャリア教育＝進路指導と思われがちだが、キャリア教育は生きる力を育成するために、自己啓発する機会を与えたり、身近な人とうまくかわり、コミュニケーション能力を育成することが重要だと考える。
・社会はお互いに支え合って成り立っていることを自覚して、意見を伝え、練り合い、修正・改善を図っていける力を育成することが大切であると思うので、大変意義があったと思う。
・ただ「優勝する」という目標を持つだけでは、その時だけ一致団結できたとしても、普段の生活に生かされないと思うので、1ヶ月以上かけて今回の実践のような活動をさせたことは大変有意義だったと感じる。
・最後の学活では「コンクールを通して良かったことを、日常の生活に生かしていこう」という話し合い活動を設けたことで、今回の経験が今後の日常生活に生かされていくのではないかと思う。

る実践のほかに、1学期の宿泊体験や3学期の球技大会についても指導計画やワークシートなどを作成し、系統的なプログラムを実行したいと考える。

X 今後の展望

1 系統的なプログラムの作成

中学1年生の1年間を通したプログラムを作成するためには、系統性をもたせていくことが必要である。コンクールにおける実践では、中学校生活や新しい人間関係に慣れた2学期という時期から、集団の中での役割を見付け、集団活動にかかわりながら、よりよい人間関係を形成することに重きを置いた実践計画を考えた。そこで、中学1年生という新しい環境に戸惑いのある1学期は、宿泊体験を通して、級友のよいところを見付けながら、新しい人間関係を築くことに重点を置き、また、次年度への準備期間である3学期は、球技大会を通して、学級集団の成長を確認しながら、次年度の集団活動への意欲を高めることに重点を置き、それぞれ指導計画やワークシートなどを作成していく。

2 キャリア教育の理解と推進

「キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査の第一次報告書（国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター, 2013）」では、キャリア教育の推進が求められていることの認識は進んでいるものの、「指導の内容や進め方が分からない」「適切な教材が得られない」「キャリア教育と進路指導の違いがわからない」などと感じている教員が多いと報告されている。協力校でも同じような声が聞こえる。また、従来の進路指導との違いがあまり見られず、キャリア教育は各教科、道徳、総合的な学習の時間、特別活動などを含めた、学校の教育活動全体を通して取り組むという認識が薄いのが現状である。そのため、校内において、キャリア教育に関する理解を深めるための研修を推進していきたい。また、学校以外の場でも今回の研究内容や来年度以降の実践を発信し、キャリア教育に対する認識を高めていきたい。

<参考文献>

- ・文部科学省 『第2期教育振興基本計画』（2013）
- ・文部科学省 『小学校キャリア教育の手引き』（2010）
- ・文部科学省 『中学校キャリア教育の手引き』（2011）
- ・中央教育審議会 『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について（答申）』（2011）
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 『キャリア教育を創る』（2011）
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター 『キャリア教育・進路指導に関する総合的実態調査 第一次報告書』（2013）
- ・国立教育政策研究所生徒指導・進路指導研究センター編 『キャリア教育のススメ』 東京書籍（2009）
- ・群馬県教育委員会 『平成25年学校教育の指針』（2013）
- ・群馬県教育委員会 『はばたく群馬の指導プラン』（2012）
- ・三村 隆男 著 『キャリア教育入門 その理論と実践のために』 実業之日本社（2004）
- ・渡辺 三枝子 著 『キャリア教育 自立していく子どもたち』 東京書籍（2008）

<担当指導主事>

悴田 利行 上原 清司

2学期 合唱コンクール

第1時の展開 見通し1 (事前指導：学級活動 1 / 4)

＜キャリア教育の視点＞ 具体的な要素：コミュニケーション・スキル、他者に働きかける力

- 1 **ねらい** 体育祭の反省を基に、合唱コンクールに向けた学級全体の行動目標を設定し、自己の役割を見付ける。
- 2 **準備** 教師：拡大紙1（体育祭の成果）、拡大紙2（体育祭の課題）、ワークシート①、付箋紙、発表用紙、ペン、『話合いのルール』、『司会の進め方』
生徒：体育祭振り返り用紙
- 3 **展開**

学習活動〔学習形態〕	時間	指導上の留意点及び支援・評価（◇評価）
〔学級全体〕 1. 本時の活動の確認を行う。	3分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動1、2は学級委員の司会で進行させ、必要に応じて補足説明する。学級委員とは事前に打ち合わせを行い、自信をもって進行させる。 ・学級委員に、合唱コンクールの学級スローガンとそこに込められた思いを発表させる。
〔学級全体〕 2. 体育祭における集団活動を振り返る。 ①成果を確認する。 ②課題を確認する。	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭での成果や課題を、合唱コンクールにつなげるようにしたい。 ・事前に書いた「体育祭振り返り用紙」への記載内容をまとめておき、拡大紙1、2で確認させる。 ・①については、担任から見た成果も伝えるようにする。 ・②については、個人的な批判とならないように注意する。
〔グループ〕 3. 体育祭の課題を踏まえ、合唱コンクールの学級スローガン達成のために必要な学級共通の具体的な行動を話し合う。 ①各自具体的な行動を考え、付箋紙に書く。 ②付箋紙を貼付シートに貼りながら意見を出し合う。 ③出し合った意見を整理する。 ◇活動時間の目安◇ ①、②、③各6～7分程度	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・司会を事前に決めておき、『司会の進め方』に沿って進行させる。 ・①については、最終目標ではなく、集団活動を行っていく際の具体的な行動を考えるように伝える。また、考える際は、『話合いのルール』の「意見のポイント」を参考にさせる。 ・自分の考えを付箋紙に書く時間を設け、一人一人が話合いに参加できるようにする。 ・付箋紙への記入の様子から、必要に応じて個別指導を行う。 ・②については、『話合いのルール』の「話合いの仕方」を参考にしながら、発表し合うようにさせる。 ・③については、付箋紙を動かしながら、同様の考えを分類するように指示する。 <p style="text-align: center;">◇よりよい集団活動にするための学級の行動を挙げている。 【思・判・実】（観察・ワークシート）</p>
〔学級全体〕 4. 各グループの考えを発表し合い、整理し、合唱コンクールに向けた学級行動目標を決める。	13分	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループの考えを発表用紙に書き、黒板に掲示しながら発表させる。 ・『話合いのルール』の「意見の決め方・選び方」を参考にしながら、各グループの考えを整理し、学級行動目標を3～4個に絞らせる。
〔個人〕 5. 合唱コンクールに向けた集団活動における自己の役割を考える。	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクールに向けた集団活動において、学級のためにどんなことができるか考えさせる。 ・必要に応じて、生徒の考えた役割を紹介し、考え方の例を示す。 <p style="text-align: center;">◇合唱コンクールに向けた集団活動における自己の役割を見付けている。【思・判・実】（観察・ワークシート）</p>

ワークシート① 合唱コンクールを成功させるために

～クラスの行動目標を決めよう！～

(月 日 1年 組 番 名前)

- 1 テーマに対して、「意見のポイント」を参考にして、意見を考えよう。

議題（テーマ）



話合いで決まった『クラスの行動目標』

- 2 クラスのために、自分はどんなことができるか考えよう。（自分の行動目標を考えよう。）

--

- 3 振り返り（4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない）

☆テーマに対する自分の意見を考えることができた。	4	3	2	1
☆自分の意見を発表することができた。	4	3	2	1
☆友だちの意見のよいところを考えながら発表を聞くことができた。	4	3	2	1
☆「自分もよくて、みんなもよい」クラスの行動目標を決めることができた。	4	3	2	1
☆クラスのために、自分はどんなことができるか考えることができた。	4	3	2	1
☆感想				

体育祭を振り返って



(月 日 1年 組 番 名前)

中学生になって初めての体育祭が終わりました。体育祭の練習から本番までを振り返ってみましょう。そして、次の「合唱コンクール」がよりよい活動となるように、今回の経験を生かしていきましょう。

(1) 体育祭を通して（練習から本番まで）、**自分自身の取組**を振り返り、あてはまる数字に○を付けてください。また、選んだ理由も書いてください。

【4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない】

① クラスの活動に進んで取り組むことができた。 4－3－2－1

[]

② クラスの活動の時に、クラスのためにどんなことができるか考え、取り組むことができた。 4－3－2－1

[]

(2) 体育祭を通して（練習から本番まで）、**クラス全体の取組**を振り返りましょう。

① クラス全体の「**よかったところ**」や「**成長したところ**」について、気付いたことをできるだけ具体的に書いてください。

[]

② クラス全体の「**反省・改善した方がよいところ**」について、気付いたことをできるだけ具体的に書いてください。

[]

(3) 体育祭を通して（練習から本番まで）、「**大切だと感じたこと**」や「**合唱コンクールに向けて生かしていきたいこと**」などを書いてください。

[]

(4) 合唱コンクールの学級スローガンを考えましょう。

(「**コンクールを通してこんなクラスにしたい**」や「**こんなコンクールにしたい**」など、コンクールへの意気込みや思いを書いてください。)

[]

話し合いのルール

意見の考え方

ポイントから
ずれないように
意見を考えよう！



<意見のポイント>

- ・テーマに合っているか？
- ・時間や方法など実行可能か？
- ・みんなで取り組めそうか？

話し合いの仕方

発表の仕方

- ① 指名されてから発言しよう。
- ② みんなに聞こえる声で発言しよう。
- ③ 理由と一緒に、自分の意見（提案・賛成・反対・質問）をしっかりと発表しよう。

・～がいいと思います。～だからです。
・～だから、～さんの意見に賛成です。

マイナス発言、勝手な発言、個人的な批判はやめよう！

発表の聞き方

- ① 大切なところを押さえながら、最後まできちんと聞こう。
- ② 自分の考えと比べながら聞こう。
- ③ 分からないことは質問しよう。

意見に対して笑ったり、冷やかしたりすることはやめよう！

意見の決め方・選び方

ステップ1 意見を出し合う

- ・ふせん紙（発表用紙）を貼りながら、一人一人（各グループ）から意見を出してもらいます。
- ・分からないことがあったら質問します。

ステップ2 意見を比べ、整理する

- ・出された意見を比べ、ふせん紙（発表用紙）を動かし、似た意見をまとめます。

ステップ3 意見を絞り込み、決定する

- ・まとめた意見の中で、賛成できる（賛成できない）ところを見つけます。
- ・まとめた意見の中で、「自分もよくて、みんなもよいもの」を選びます。

- 1 選ぶときは、「意見のポイント」とずれていないか確認します。
- 2 意見は、1つに絞る必要はありません。

* **ステップ3** でどうしても決定できない場合

ステップ4 多数決で決定する

- ・「決定したことは、みんなで協力して取り組んでいくこと」が大切です。



自己評価カード

1年 組 番 氏名 _____

【 A：よくできた B：まあまあできた C：あまりできなかった D：できなかった 】

おもな項目	日(月)	日(火)	日(水)	日(木)	日(金)
<クラスの行動目標>					
<自分の行動目標（クラスのために自分が行うこと）>					

今週の合唱への取組はどうだった？		来週の行動目標 (自分が行うこと)
“自分”の 「よくなった点」や「改善点」	“パート（クラス全体）”の 「よくなった点」や「改善点」	
「よくなった点」	「よくなった点」	
「改善点」	「改善点」	

第2時の展開 **見通し2 (事中指導：学級活動 2 / 4)**

<キャリア教育の視点> 具体的な要素：コミュニケーション・スキル、チームワーク

- 1 **ねらい** 合唱コンクールに向けた集団活動の中で生じた課題に対して、その解決方法を考え、学級や個人の取組を見直す。
- 2 **準備** 教師：拡大紙（練習の成果）、ワークシート②、付箋紙、付箋紙貼付シート、発表用紙、ペン、『話し合いのルール』、『司会の進め方』
生徒：自己評価カード
- 3 **展開**

学習活動〔学習形態〕	時間	指導上の留意点及び支援・評価（◇評価）
<p>[学級全体]</p> <p>1. 本時の活動の確認を行う。</p> <p>[学級全体]</p> <p>2. 今までの練習を振り返り、よくなった点（成果）を確認する。</p>	10分	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動1、2は学級委員の司会で進行させ、必要に応じて補足説明する。学級委員とは事前に打ち合わせを行い、自信をもって進行させる。 ・「自己評価カード」への記載内容をまとめておき、拡大紙で確認させる。 ・担当が気付いた成果も付け加える。
<p>[パートの小グループ]</p> <p>3. 今までの練習から見えてきたパートの課題について、その解決方法を話し合う。</p> <p>①各自解決方法を考え、付箋紙に書く。</p> <p>②付箋紙を貼付シートに貼りながら意見を出し合う。</p> <p>③出し合った意見を整理する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><活動時間の目安></p> <p>①、②、③各6～7分程度</p> </div>	20分	<ul style="list-style-type: none"> ・パートの課題について話し合わせることで、よりよい合唱を創ろうとする気持ちを高めさせる。 ・パートの課題は、「自己評価カード」への記載内容や日常の練習の様子から実行委員が事前に選定し、提示する。 ・各グループに実行委員が必ず一人いるように編成し、『司会の進め方』に沿って進行させる。 ・①については、『話し合いのルール』の「意見のポイント」を参考にし、解決方法を考えさせる。 ・自分の考えを付箋紙に書く時間を設け、一人一人が話し合いに参加できるようにする。 ・付箋紙への記入の様子から、必要に応じて個別指導を行う。 ・②については、『話し合いのルール』の「話し合いの仕方」を参考にしながら、発表し合うようにさせる。 ・③については、付箋紙を動かしながら、同様の考えを分類するように指示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇パートの課題に対する解決方法を見付けている。 【思・判・実】（観察・ワークシート）</p> </div>
<p>[パート全体]</p> <p>4. 各グループで考えた解決方法を持ち寄り、パートごとに取組を見直す。</p>	13分	<ul style="list-style-type: none"> ・実行委員に司会をさせ、『司会の進め方』に沿って進行させる。 ・各グループの考えを発表用紙に書き、提示しながら発表し合うようにさせる。 ・『話し合いのルール』の「意見の決め方・選び方」を参考にしながら、各グループの考えた解決方法を整理し、決めさせる。 ・パートごとに解決方法を決め、今後の練習の在り方について見通しをもたせたい。
<p>[個人]</p> <p>5. 合唱コンクールに向けて自己の取組を見直す。</p>	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・自己の取組を振り返り、よりよい合唱にするために、どんなことができるか考えさせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;"> <p>◇今後の自己の取組を考えている。 【思・判・実】（観察・ワークシート）</p> </div>

ワークシート② 合唱コンクールを成功させるために

～よりよい合唱にするために、パートの課題の解決方法を考えよう！～

(月 日 1年 組 番 名前)

- 1 テーマに対して、「意見のポイント」を参考にして、意見を考えよう。

議題（テーマ）



話合いで決まった『パートの解決方法』 ＜合唱に関すること＞
＜練習態度に関すること＞

- 2 よりよい合唱にするために、自分はどんなことができるか、あらためて考えてみよう。

--

- 3 振り返り（4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない）

☆テーマに対する自分の意見を考えることができた。	4	3	2	1
☆自分の意見を発表することができた。	4	3	2	1
☆友だちの意見のよいところを考えながら発表を聞くことができた。	4	3	2	1
☆「自分もよくて、みんなもよい」パートの解決方法を決めることができた。	4	3	2	1
☆よりよい合唱にするために、自分はどんなことができるか考えることができた。	4	3	2	1
☆感想				

< 「合唱」 に関すること >

< 「練習態度」 に関すること >

課題①：歌詞を覚え切れていない

課題③：練習がすぐ始まらない

< 意見のポイント >

- ・ テーマに合っているか？
- ・ 時間や方法など実行可能か？
- ・ みんなで取り組めそうか？

課題②：他のパートにつられる

課題④：ふざけながらやっている

第3時の展開 **見通し2 (事中指導：学級活動 3/4)**

<キャリア教育の視点> 具体的な要素：コミュニケーション・スキル、チームワーク

- 1 **ねらい** 前時に決めた解決方法を振り返り、合唱を仕上げるための作戦を考え、学級や個人の取組を見直す。
- 2 **準備** 教師：ビデオ機器、ワークシート③、付箋紙、付箋紙貼付シート、発表用紙、ペン、『話合いのルール』、『司会の進め方』
生徒：自己評価カード

3 展開

学習活動〔学習形態〕	時間	指導上の留意点及び支援・評価（◇評価）
〔学級全体〕 1. 本時の活動の確認を行う。 2. 学年リハーサルのビデオを視聴する。	8分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の議題を掲示する。 ・コンクールでの採点基準を説明し、視聴する際のポイントを示す。 ・これまでの取組のよかった点を賞賛し、コンクールに向けて最後の見直しを行うように伝える。
〔パート全体（男子は2グループ）〕 3. 前時に決めたパートの解決方法を振り返る。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・司会は実行委員に行わせ、『司会の進め方』に沿って進行させる。 ・各項目ごとに挙手で振り返るように伝える。
〔パート全体（男子は2グループ）〕 4. 合唱を仕上げるためのパートの最後の作戦を話し合う。 ①各自作戦を考え、付箋紙に書く。 ②付箋紙を貼付シートに貼りながら意見を出し合う。 ③出し合った考えを整理し、作戦を決める。	25分	<ul style="list-style-type: none"> ・①については、学年リハーサルや前時に決めた解決方法の振り返りを踏まえて、合唱を仕上げるために、残り数日で「どんな点を改善していくか」「どんなことに取り組んでいくか」など、具体的に考えるように伝える。 ・②については、『話合いのルール』の「話合いの仕方」を参考にしながら、発表し合うようにさせる。 ・③については、付箋紙を動かしながら、同様の考えを分類し、『話合いのルール』の「意見の決め方・選び方」を参考にしながら決めさせる。
<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <活動時間の目安> ① 6～7分 ② 7～8分 ③ 10～12分 </div>		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> ◇パートの作戦を見付けている。 【思・判・実】（観察・ワークシート） </div>
〔学級全体〕 5. 発表し合い、作戦を共有する。	7分	<ul style="list-style-type: none"> ・各パートで決めた内容を発表用紙に書き、黒板に掲示しながら発表させる。 ・各パートの発表を共感的に聞くとともに、合唱を仕上げるためには、すべてのパートの協力が大切であることを伝える。 ・よりよい合唱を創っていかうとする意識を高めるために、今までの取組を賞賛する。
〔個人〕 6. 合唱コンクールまでの自己の取組を見直す。	5分	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の感想を含め、合唱を仕上げるために、コンクールまでの数日間どんなことができるか考えさせる。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: 80%;"> ◇今後の自己の取組を考えている。 【思・判・実】（観察・ワークシート） </div>

ワークシート③ 合唱コンクールを成功させるために

～合唱を仕上げるために、パートの最後の作戦を考えよう！～

(月 日 1年 組 番 名前)

- 1 テーマに対して、「意見のポイント」を参考にして、意見を考えよう。

議題（テーマ）



話合いで決まった『パートの最後の作戦』

- 2 合唱コンクールまでの残り数日間、合唱を仕上げるために自分はどんなことができるか、考えよう。

- 3 振り返り（4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない）

☆テーマに対する自分の意見を考えることができた。	4	3	2	1
☆自分の意見を発表することができた。	4	3	2	1
☆友だちの意見のよいところを考えながら発表を聞くことができた。	4	3	2	1
☆「自分もよくて、みんなもよい」パートの最後の作戦を決めることができた。	4	3	2	1
☆合唱を仕上げるために、残り数日間、自分はどんなことができるか考えることができた。	4	3	2	1
☆感想				

< 「合唱」 に関すること >

< 「練習態度」 に関すること >

< 意見のポイント >

- ・ テーマに合っているか？
- ・ 時間や方法など実行可能か？
- ・ みんなで取り組めそうか？

第4時の展開 **見通し3 (事後指導：学級活動 4/4)**

<キャリア教育の視点> 具体的な要素：コミュニケーション・スキル、他者の個性を理解する力

- 1 **ねらい** 合唱コンクールにおける取組全体を振り返り、集団活動のよさに気づき、学校生活において、集団の向上のために進んでかかわろうとする。
- 2 **準備** 教師：ビデオ機器、拡大紙1（合唱コンクールの成果）、拡大紙2（体育祭の反省点）、ワークシート④
生徒：合唱コンクール振り返り用紙、自己評価カード

3 展開

学習活動〔学習形態〕	時間	指導上の留意点及び支援・評価（◇評価）
〔学級全体〕 1. 本時の活動の確認を行う。	10分	・勝敗にかかわらず、素晴らしい合唱だったことを伝え、これまでの取組を賞賛する。
〔学級全体〕 2. コンクール当日のビデオを視聴する。		
〔学級全体〕 3. 合唱コンクールにおける集団活動を振り返る。 ①自分が変わった点を出し合う。 ②学級がよくなった点を出し合う。 ③「学級がよくなった理由」「一人一人が頑張った理由」を考える。 ----- ◇活動時間の目安◇ ①、②各10分程度 ③5分程度	15分	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人が意見交流に参加できるように、事前に「合唱コンクール振り返り用紙」に記入させておく（記載事項を拡大紙1にまとめておき、必要に応じて活用する）。 ・①については、「自分自身の気持ちや考え方の変化」を、②については「学級の様子や雰囲気の変化」を発表するように伝える。 ・生徒の意見については、共感的に聞くとともに、他の生徒にも投げかけ、個人や学級の成長を全体で確認させる。 ・体育祭の反省点（拡大紙2）を再提示し、自分たちの成長を実感させる。 ・生徒の具体的な活躍例を紹介し、賞賛する。 ・③については、個人の成長（頑張り）が学級の成長（頑張り）に、また、学級の頑張りが個人の頑張りにつながっていることに気付かせ、集団活動のよさを実感させる。
〔個人〕 4. 合唱コンクールに向けた集団活動を振り返った感想を書く。	5分	◇集団活動のよさに気付いている。 【知・理】（観察・ワークシート）
〔学級全体〕 5. 日常の学校生活における課題を出し合う。	12分	<ul style="list-style-type: none"> ・合唱コンクール振り返り用紙への記載内容から、意図的に指名し、様々な意見を出させる。 ・出された課題に対して、他の生徒の考えを聞きながら、多様な意見を引き出すようにする。また、漠然とした課題に対しては、より具体的なものにしていく。 ・コンクールを通じた学級集団としての成長を確認しつつ、日常の集団活動の課題を出し合い、コンクール後の生活にも目的意識をもたせたい。
〔個人〕 6. 今後の学校生活での自己の取組について考える。	8分	◇集団の向上のために進んでかかわろうとしている。 【関・意・態】（ワークシート）

～みんなで頑張ってきたことを振り返ろう！～

(月 日 1年 組 番 名前)

- 1 合唱コンクールに向けてみんなで頑張ってきたことを振り返り、気付いたことや大切だと思ったこと、感想などを書こう。

- 2 学校生活（授業・給食当番・清掃など）の中で、クラスをよりよくしていくために、自分はどんなことができるか考えよう。
 （「合唱コンクールに向けた活動を通して学んだことを、学校生活に〇〇〇のように生かしていきたい」でもよいです。）

- 3 振り返り（4：あてはまる 3：ややあてはまる 2：あまりあてはまらない 1：あてはまらない）

☆クラスのよいところや成長に気付くことができた。	4 3 2 1
☆よりよいクラスにしていくための改善点を見付けることができた。	4 3 2 1
☆友だちの意見のよいところを考えながら発表を聞くことができた。	4 3 2 1
☆学校生活の中で、自分はどんなことができるか考えることができた。	4 3 2 1

合唱コンクールを振り返って



(月 日 1年 組 番 名前)

合唱コンクールが終わりました。体育祭終了後、みんな本当によく頑張ってきました。自分が、そしてクラスみんなが、頑張ってきたことを振り返ってみましょう。そして、よりよいクラスになるように、今回の経験を生かしていきましょう。

- (1) 合唱コンクールを通して（練習から本番まで）、たくさん頑張ってきたことがあったと思います。「**個人的にこんなことをしてきた**」「**クラスのためにこんなことを頑張った**」などをできるだけ具体的に書いてください。

[.
.]

- (2) 合唱コンクールの練習を始める前と比べて、**自分自身の中で、「気持ちや考えが変わったところ」「よくなったところ」「成長したところ」**などをできるだけ具体的に書いてください。

「こんな気持ちになってきた（変わってきた）」「こんなことをするようになった」「こんなことに気付いた」
などでもよいです。

[.
.]

- (3) 合唱コンクールの練習を始める前と比べて、**クラス（パート）の様子や雰囲気**で、「よくなったところ」や「成長したところ」などをできるだけ具体的に書いてください。

「こんな様子が見られるようになった」「雰囲気がこう変わってきた」
などでもよいです。

[.
.]

- (4) 普段の生活の中で、よりよいクラスにしていくために、「**改善した方がよいと思うところ**」をできるだけ具体的に書いてください。

普段の「**授業**」「**清掃**」「**給食当番**」などの場面を思い出して書いてください。

[.
.]